

第 104 代 カンタベリー大主教  
ローワン・ダグラス・ウィリアムズ師 メッセージ

桃山学院創立 125 周年・大学開学 50 周年記念式典

2009年9月26日(土)

リーガロイヤルホテル ロイヤルホール

父と子と聖霊の御名によって。アーメン。

新約聖書の中で私たちが聖アンデレに出会うのはわずか1回か2回だけです。しかし、聖アンデレに出会うとき、私たちは彼が特別な役割を担って登場していることを見出すのです。聖アンデレは人々をキリストに引き合わせてくれる人として、私たちの前に現れます。まず彼は自分の兄弟であるペテロをキリストに引き合わせます。福音書によりますと、その後、外国の人々がイエス・キリストに会いたいと思って訪ねて来たとき、アンデレはこれらの人々をキリストに引き合わせます。

アンデレはキリストの中に、力に満ちたすばらしい何かを見出したという強い確信を抱き、それを他の人々にも同じように見て欲しいと願うのです。何か素晴らしいものを見つけたという彼の確信は非常に強いので、人々は彼を見て信用し、彼とともに歩みたいと思うのです。アンデレは光の方に顔を向け、今やその光が彼の眼の中に映っていると言ってよいでしょう。

アンデレが見たものは何でしょうか。彼は完全な人間の姿を見たのです。神との関係において新しく生まれ変わった人間性を見たのです。そして彼が他の人々に見て欲しいのは、十全な人間性、神が共にいてくださることによって、輝きが満ち溢れている一人の人間の顔です。彼はイエスの中に、先ほど朗読された聖書の言葉(エフェソの信徒への手紙 3:14~21)にあるように、神の満ち溢れる豊かさを見出し、他の人々にもその豊かさに満ち溢れたいのちを生きて欲しいと願うのです。

桃山学院の創立者たち、今から 125 年前にこの学院を創立した人々も、人間の顔の中に神の満ち溢れる輝きを見た人たちでした。彼らはイエスの中に、神の満ち溢れる豊かさを見出し、同様に彼らはイエスに従う人々の中に溢れる人間性を見たのです。そして、他の人々もまた同じもので満たされることを願ったのです。しかし彼らは、すべての真の宣教師たちと同様に、単に宗教上のことだけに興味をもっていたわけではありませんでした。人々の生活と経験のすべてに対して、興味をもっていたのです。

桃山学院が多くの恩恵を受けたチャーチ・ミッションナリー・ソサエティ(英国聖公会宣教協会:以下、CMS)の初期の活動は、それ自身が大変興味深く、学問的研究の対象です。CMSを創設した人々は当時の大英帝国の奴隷貿易に反対して戦った人々や、イングランドの労働者がより良い生活条件を獲得できるように活躍した人々と近い関係にありました。イングランドの労働者や大英帝国の奴隷が、自分たちが本来与えられている豊かな人間性を真に経験することができないことに、彼らは関心を抱き、心を痛め、怒りを覚えていました。そこで彼らの宣教活動は、常に、十全な人間性を享受できるように人々を自由に導くという関心と結びついていました。このような活動の精神は、今日のCMSについても当てはまることです。

この大学が、同様に神の豊かさに溢れる人間性を実現するために創設されたということをお忘れなく、思い起こしてください。

いうまでもなく、桃山学院大学は卓越した研究教育や国際協力、さらに人々が社会において各自の役割を果たすことができるような教育活動などを行っていますが、キリスト教系教育機関としては、それ以上の何かが常にあります。この大学で行われている教育は、聖パウロの言う「愛に根ざした」ものです。それは人々が想像しうる何れのものをも超えた自由と喜びを人間は生み出すことができるという確信に基づいているのです。そこで、この大学において学生たちは自分自身の本性の神秘さについて学ぶでしょう。この信念がキリスト教に根源があることに気付くか否にかかわらず、学生たちはその精神、すなわち大きな、そして深い人間性の理念を、自分自身の中に吸収しているのです。

ですから、聖アンデレと同様に、学生たちの眼の中には、真理の光の輝きがあり、他の人々を惹きつけることでしょう。この大学の未来のために私たちがお祈りするのは、これからも引き続きこの大学が、人生や仕事において、人間性の深みと豊かさを示してくれるような男女を育成することです。そして社会のどこにあって、世界のどこにいても、彼らが、ほとんどの人が理解しているより、もっと深い何かを目撃し、その証人となることです。そして、たとえ奴隷状態や不正の存在する所にあっても、また仕事からくる圧迫や社会の様々な悩みがある所にあっても、この大学の出身者は、もっと喜びにあふれたものに変革することができるということを示すことです。

どの大学でも学生たちに成功して欲しいと願っていますが、キリスト教系大学はそれだけでなく、それに加えて喜びと平和を理解して欲しいと願っており、それは正しいことです。ですから、この大学での生活に関わっているすべての人々が、人間性の豊かさを経験し、神の満ち溢れる豊かさを受け取る心構えができることを祈っております。

父と子と聖霊の御名によって。アーメン。